

国土交通省近畿地方整備局淀川ダム統合管理事務所 独立行政法人水資源機構日吉ダム管理所
資料配布

配布日時	平成23年 5月12日 時 分
------	--------------------

件名	日吉ダムの防災操作【5月11～12日（前線）】について - 桂川沿川の河川水位低減に効果を発揮 - - 5月の洪水としては、管理開始以来最大の流入量 -
----	--

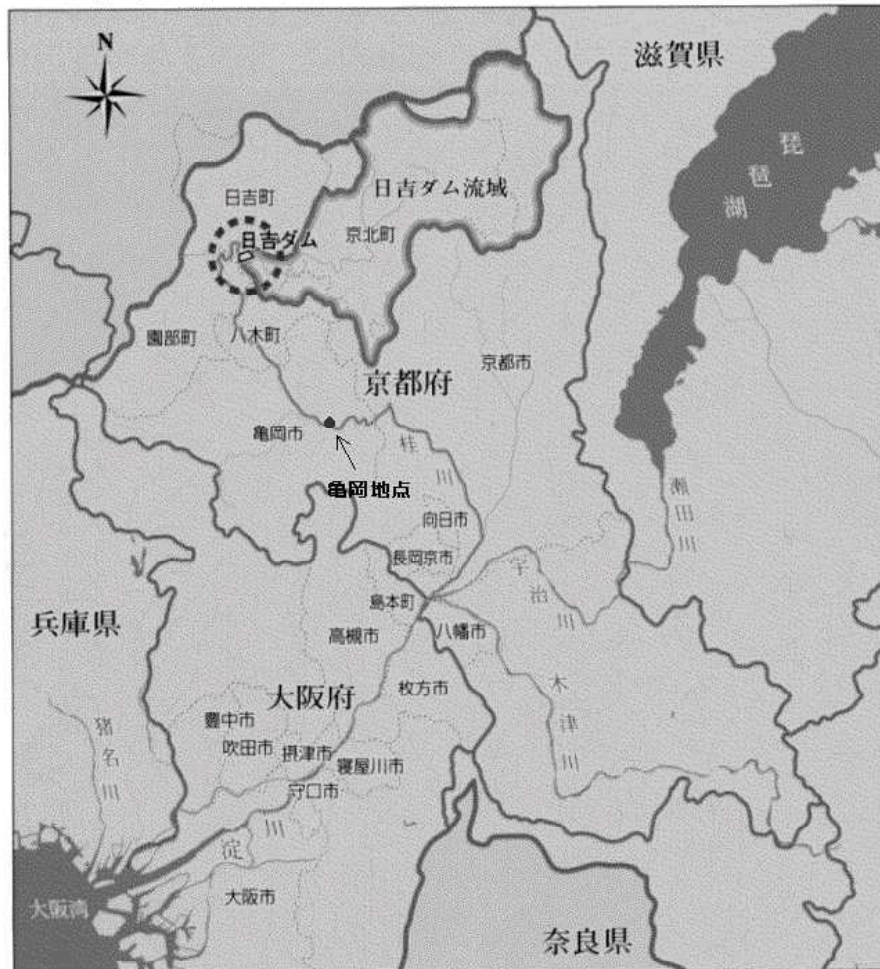
概要	<p>日本付近に停滞していた前線は5月10日より西日本各地に大雨をもたらしました。淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）上流域（京都市右京区京北）でも、5月11日の17時から20時にかけて、流域平均の3時間当たり雨量が46.2mmを記録し、総雨量は5月10日8時から5月12日12時にかけて165mmに達しました。</p> <p>この降雨による出水により、日吉ダムでは最大流入量（5月11日23時34分）毎秒390m<sup>3</sup>を記録しました。</p> <p>日吉ダムでは最大毎秒240m<sup>3</sup>を貯留し、ダムからの放流量を毎秒約150m<sup>3</sup>とする防災操作を行い、京セラドーム5杯分に相当する合計約616万m<sup>3</sup>の流水を貯水池に貯め込みました。</p> <p>今回、日吉ダムの防災操作により、下流の亀岡地点において、約70cmの河川の水位低減効果があったものと推定されます。</p> <p>なお、ダムがなかった場合、避難判断水位4.00mに達する洪水であったと想定されます。</p>
----	---

【防災操作とは】大雨などにより、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に溜め込んで、ダムから下流へ流す量を減らし、下流の川の水位を低減させることです。今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

同時配布	京都府政記者室 南丹市政記者クラブ
------	----------------------

問い合わせ先	<p>国土交通省近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所 副所長 橋本 和夫 電話：072-856-3131（代表）</p> <p>独立行政法人水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 後藤 孝 電話：0771-72-0171（代表）</p>
--------	--

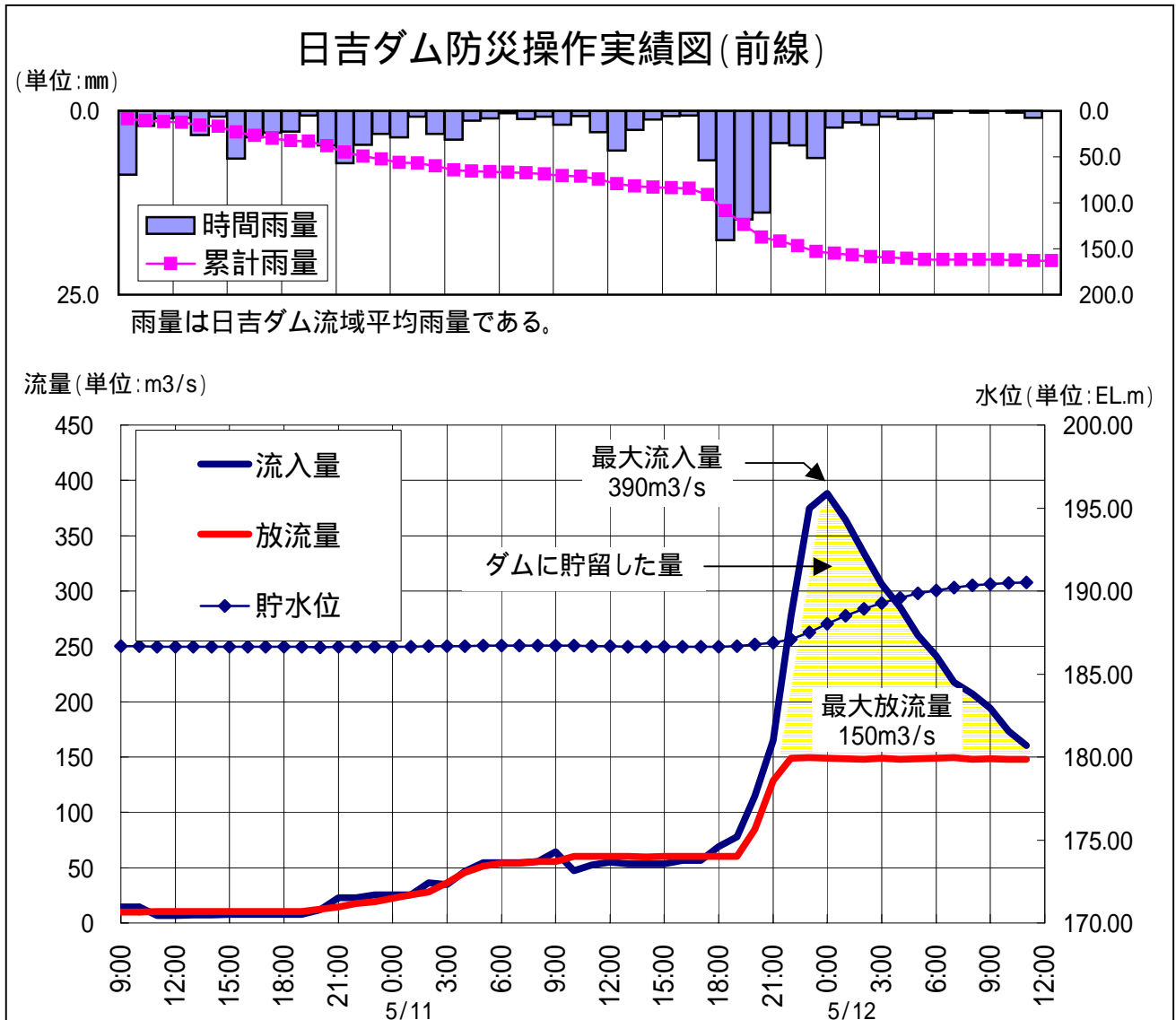
## ■ 淀川水系と日吉ダム流域



日吉ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダムの効果発現に努めて参ります。

# 今回の降雨に伴う日吉ダムの防災操作について

・今年初めての防災操作



## 管理開始(平成10年4月以降)の主な洪水の記録

順位	洪水名	流域総雨量 (mm)	最大流入量 (m <sup>3</sup> /s)	最大放流量 (m <sup>3</sup> /s)
1	平成16年10月 台風23号	238	856	150
2	平成22年7月 梅雨前線	170	698	150
3	平成10年9月 台風7、8号	161	550	114
4	平成18年7月 梅雨前線	273	494	150
7	平成23年5月 前線	165	390	150

平成23年5月10日8時～平成23年5月12日12時までの日吉ダム流域平均総雨量

# 日吉ダムによって、下流の河川水位を低減！

亀岡地域を流れる桂川では、5月10日からの前線の影響による降雨によって、川の水量が増大しました。そのため、上流の日吉ダムに貯め込み、少ない量を放流（毎秒390m<sup>3</sup> 毎秒150m<sup>3</sup>）することによって、桂川（亀岡地点）の水位上昇が約70cm低く抑えられ、河川水位の低減を図りました。

**京セラドーム 5杯分に相当する水を日吉ダムにため込み、少ない量を放流することで下流の河川の水位上昇を抑えました。**（京セラドームの容量を120万m<sup>3</sup>として算出）



ダム堤体上流面



## 亀岡地点での水位低減効果(平成23年5月12日)

